

合唱団おおやま

日本の夏・大山の夏

with オーケストラ・アンサンブル金沢



と き 8月26日(日) 13時30分開場 14時開演

ところ 大山町民文化会館大ホール

- 主催 大山町・大山町教育委員会・合唱団おおやま・(財)石川県音楽文化振興事業団
- 共催 北日本新聞社
- 後援 洗足学園魚津短期大学

大山町の助成金により低料金で鑑賞できます。

I 日本の夏を歌う〈混声三部合唱〉編曲 榊原 栄

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 花火 | 6. 我は海の子 |
| 2. たなばた | 7. 牧場の朝 |
| 3. うみ | 8. かもめの水兵さん |
| 4. 夏は来ぬ | 9. 浜辺の歌 |
| 5. みどりのそよ風 | 10. 椰子の実 |

II 青少年のためのオーケストラ／ベートーヴェン

ロマンス ヘ長調 (ヴァイオリン独奏：水上由美)
メヌエット
交響曲第5番ハ短調「運命」より第1楽章

III モーツァルト／ミサ曲 八長調 K.317「戴冠式ミサ」

1. Kyrie (キリエ) 「主よ、あわれみたまえ。キリストよ、あわれみたまえ。」
2. Gloria (グローリア) 「天のいと高きところには、神に栄光あれ。」
3. Credo (クレド) 「われは信ず、唯一の神。」
4. Sanctus (サンクトゥス) 「聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。」
5. Benedictus (ベネディクトゥス) 「ほむべきかな、主の名によりて来たる者。」
6. Agnus Dei (アニュス・デイ) 「神の子羊、世の罪を除きたもう主よ。」

ミサ曲 八長調 K.317〈戴冠式ミサ〉／モーツァルト

ミサは、ローマ・カトリック教会における最高の儀式で、その儀式の時にはラテン語による定められた式文が使われている。これを「ミサ通常文」というが、そのなかの「キリエ」(あわれみの讃歌)、「グローリア」(栄光の讃歌)、「クレド」(信仰宣言)、「サンクトゥス」(感謝の讃歌)、「アニュス・デイ」(平和の讃歌)などの部分に音楽をつけたものが「ミサ曲」である。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1757-1791)が生涯に書いた20曲を越すミサ曲中、もっとも有名なものが、〈戴冠式ミサ〉の通称を持つ八長調K.(ケツヘル)317である。作曲は、モーツァルトに飛躍的な音楽的成熟をもたらした1777年9月から79年1月に及ぶマンハイム・パリ旅行から戻った直後に行われた。通称の〈戴冠式ミサ〉は、聖母マリアの戴冠像に因む戴冠の儀式のために書かれたという説に由来している。しかし最近では、1779年4月の復活祭の式典のために書かれ、初演されたという説が有力である。

●指揮者
ゲアノート・シュマルフス

デトモルト北西ドイツ音楽アカデミーにて、オーボエをH. ヴィンシャーマン、ピアノをC. シルデ、指揮をM. シュテファーニに学ぶ。卒業後、ロンドン留学を経て、ミュンヘンフィルハーモニー交響楽団に第一オーボエ奏者として就任、首席指揮者であったR. ケンペのもとで指揮の研鑽をする。

ミュンヘン市立リヒャルト・シュトラウス音楽院オーケストラの指揮者を皮切りにミュンヘンのオーケストラ奏者たちによって構成されるミュンヒナー・カンマー・ソリスデンの指揮者と芸術監督に就任し、M. アンブレ、K. リヒター、R. ケンペといったソリストと共演するほか、コンソルティウム・クラシクム、デュイスブルグ交響楽団、ドイツ・バッハ・ソリスデン、ブラティスラヴァ放送交響楽団、ケルン西ドイツ放送交響楽団、南ドイツ放送交響楽団、ベルリン自由放送交響楽団ほかとの共演、またヨーロッパを始め日本、アジア諸国での演奏会、ザルツブルグ音楽祭、ベルリン音楽週間、ドレスデン音楽祭、シュヴェツィンゲン音楽祭といった主要国際音楽祭に参加するほか、多くのレコードやCDの録音に参加している。最近では、シュトゥットガルト室内オーケストラとの共演が好評を博した。

演奏に活躍するほか音楽史の研究にも力を注ぎ、ドイツ、オーストリアといった国々で楽曲の再発見を行っている。これらの中には、ウェーバーのオーボエ・コンチェルティノーや18、19世紀のオペラ、管弦楽曲、オラトリオといった重要な作品が数多く含まれており、それらの演奏と録音が計画されている。

●ソリスト

ソプラノ
大前さち子

京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業。1981年日仏音楽コンクール入賞。翌年ドイツのフランクフルト音楽大学に留学。声楽をエリザベート・グリユンマー、ドイツ歌曲の解釈をハルトムート・ヘル、ライナー・ホフマン各氏に学ぶ。その後、ミュンヘンで声楽をローレ・フィッシャーに学ぶ。ドイツを中心にヨーロッパ各地で歌曲のリサイタルや教会コンサートのソリストとして演奏活動を行った後、1991年秋帰国。現在、日本及びヨーロッパでのコンサート活動や音楽指導にあたる。洗足学園短期大学講師、高岡バプテスト教会音楽主宰。

テノール
森清 篤実

1986年国立音楽大学声楽学科卒業。野中医師事。オペラでは「魔笛」のタミーノ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド、「フィガロの結婚」のバジリオ、「月の世界」のチェッコ、「こもり」のアイゼンシュタイン、「ジャンニ・スキッキ」のリヌッチョ、「あまんじゃくとうりこひめ」のけらい等に出演する。コンサートではヘンデルの「メサイア」、バッハの「カンタータ」、等のソリストを務める。富山県声楽家協会会員。富山市立北部中学校教諭。

アルト
碓井 智子

富山県富山市出身。武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業。東京芸術大学別科声楽専修修了。ウィーン国立音楽大学夏期セミナーに参加。第3回ハンス・ホッター教授による「ドイツ歌曲マスタークラス」ミュンヘンにて修了。ドイツにて「声楽マスタークラス」修了。第14回ソレイユ新人オーディション合格(優秀賞受賞)。友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールにおいて第2位受賞。1997年オーケストラ・アンサンブル金沢首席400奏者ルドヴィート・カンタ氏を迎えコンサートを行う。1998年ベルリンよりヴォルフラム・リーガー氏をパートナーにリサイタルを行う。毎年ソロコンサート、その他演奏活動を行う一方、ヴォイス・トレーナー、中学校特別講師など、後進の指導にも力を注いでいる。現在、洗足学園短期大学非常勤講師、M.すびゑら主宰。

バス
内山 太一

武蔵野音楽大学卒。ミュンヘン国立音楽大学卒。今までにシューベルトの「冬の旅」をはじめ、ヴォルフ、シューマン等のドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。藤原歌劇団公演のオペラでは、「マダム・バタフライ」「カルメン」「ジャンニ・スキッキ」「仮面舞踏会」「ボエム」等に出演。バッハ「マタイ受難曲」ヘンデル「メサイア」ベートーベン「第九」等、多くのコンサートに出演。NHK、FM等ラジオ、テレビにも出演。1991年にシューベルト三大歌曲集「冬の旅」「美しき水車小屋の娘」「白鳥の歌」の連続演奏を行う。1993年再度一年間ドイツに留学。洗足学園短期大学声学講師。

合唱団おおやま

95年8月に大山町民を中心に結成。96年8月に第1回の「夏のメサイア」公演。以来毎年公演を重ね、昨年7月に5回目の「メサイア」演奏を行う。今回は趣向を変え、モーツァルトと日本の歌で第6回の公演に臨む。オーケストラ・アンサンブル金沢とは5回目の共演。大山町民文化会館で毎週水曜日練習を行っている。

ソプラノ

板 直子 ・ 岩竹 幸絵 ・ 大坪 辰美 ・ 岡本 祀子 ・ 加藤 一美
 木村まゆみ ・ 熊倉 理子 ・ 梶田 修子 ・ 武部由貴美 ・ 谷崎キミ子
 谷崎 千鶴 ・ 谷本真理子 ・ 中川 律子 ・ 松井佐奈江 ・ 松井千代美
 宮原百合子

アルト

麻島 利子 ・ 井上 澄子 ・ 片山美富里 ・ 新村まゆみ ・ 高木 茂子
 高橋 英子 ・ 仲井 葉子 ・ 野入美津恵 ・ 野上真知子 ・ 早水 淑子
 平崎 康子

テノール

谷崎 修一 ・ 東海 廉之 ・ 東福 光晴 ・ 森清 篤実

バス

大磯 寛昌 ・ 大坪 史尚 ・ 片野 真一 ・ 窪田 英史 ・ 野入 豊光
 松井 輝 ・ 宮元 美信

合唱指揮

内山 太一
 板 直子

コレペティトゥーア

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。山崎道子、三津橋文子、森山ゆり子諸氏に師事。

1993年より板直子&長崎裕子アンコール・ブリュピアノデュオコンサート（第1回～第4回）を開催。1994年、第2回国際ピアノデュオ・コンクール（於東京）本選出場、入選。その他、むさしの会、市民ホールコンサート、黒部名水の里第九コンサート等に出演。また、声楽や器楽の伴奏も行う。

現在、(株)開進堂楽器音楽教室ピアノ講師、富山市医師会看護専門学校非常勤講師、国際ピアノデュオ協会会員、富山県ピアノ指導者協会会員、合唱団おおやまピアニスト、アンコール・ブリュ主宰。

オーケストラ・アンサンブル金沢

Orchestra Ensemble Kanazawa

オーケストラ・アンサンブル金沢は、石川県と金沢市が中心となって、1988年11月に岩城宏之音楽監督のもと、日本初のプロの室内オーケストラとして発足。世界中からメンバーを集め、外国人演奏者も多い。また、専属作曲家（一柳慧、外山雄三、湯浅譲二、石井真木、西村朗、武満徹、黛敏郎、池辺晋一郎、藤家淳子、林 光、江村哲二）による現代曲委嘱初演を実施し話題を呼んでいる。

海外公演は、設立2年目にユーロパリア日本文化祭に招待されベルギー、フランスなど欧州5都市へ、92、94年には豪州、ニュージーランド、シンガポール公演。95年には、シンガポール、ジャカルタ公演。96年は1ヶ月に及びヨーロッパ公演。97年にはマレーシアと3回目となるヨーロッパ公演を実施。特にドイツ5都市においては、世界的バリトン、故ヘルマン・プライ氏との共演による「シューベルト/冬の旅・オーケストラ版」を世界初演し成功させ、そのライブ版CDは大きな話題となる。98年10月には中国公演、そして99年10月には8度目の海外公演でタイ王国を訪れた。

国内公演は、金沢での定期公演をはじめ全国各地に及んでいる。94年のベートーヴェン全交響曲東京公演につづいて、95年より東京、名古屋においてモーツァルト全交響曲連続公演が2000年秋完結し、大きな話題になる。またこのライブ版「モーツァルト全集セレクト」CDがリリースされ、人気を呼んでいる。



2001年6月より新たに名古屋しらかわホールにおいて「ベートーヴェンシリーズ」、浜離宮朝日ホールにおいて「室内楽シリーズ」がスタート。そして9月にはフランチャイズとなる石川県立音楽堂のオープンをむかえ、ますます注目されている。

94年10月「飛騨古川音楽大賞」、95年3月「出光音楽大賞」、96年5月「中日文化賞」受賞。また、これまでに16種類ものCDをドイツ・グラモフォン、ソニー、ビクターよりリリースしており、「ビゼー（シCHEDリン編）カルメン組曲」が92年度レコード・アカデミー賞受賞。その他現代曲委嘱初演シリーズ「21世紀へのメッセージ」（全4枚）は94年度文化庁芸術作品賞、95年度レコード・アカデミー賞受賞。